

健全育成キャンペーン

東公民館区 松林 廣美
広報啓発専門委員

平成21年11月21日(土)快晴のもと、午前9:30分に総勢9人の広報啓発専門委員で2台の車に分乗し、市民会館から東長崎地区へ向けて出発しました。

途中「思いやりの心を育てましょう」「家族一緒の時間を作りましょう」「悪いことは悪いとしっかりしつけましょう」など、広報啓発専門委員の美声とテープを流しながら健全育成推進を呼びかけました。

7年ぶりに訪れる東長崎地区は、高城台小学校が開校され、他地区のメンバーは新しい街並みに目を見はるばかりでした。

このキャンペーンは、地域の方々と出会い、ふれあうことが出来る貴重な機会となり、また委員相互の交流を深めることができますので、今後もこの活動が末長く続くことを願っています。



子どもゆめフェスティバルに参加して

県営住宅矢上団地 平井 智美
子ども会 代表

今回初めて参加させていただきました。

少子化が叫ばれる昨今、当子ども会も世帯数、児童数共に減少の一途をたどっています。その分一人一人の子どもに目が向けられるのかというと、そうではなく、なぜか自分の子どもの教育に熱心である反面、校区や子ども会単位の活動への興味が希薄なご家族が増えつつある現状を残念に思っていました。

そんな折に、子ども会の代表を任せただけになり、将来のための教育だけでなく、子ども時代の今しかできない楽しみや思い出をと活動するなかで、このイベントを知り、他地区の子ども会の方々と交流を持ついい機会と思い、参加させていただきました。

残念ながら、準備から当日まで全世帯の参加とはいきませんでした。参加した子どもたちは喜々として会場内を走り回り、自分たちのブースでの作業も終始笑顔で、親子で充実した1日を過ごすことができました。

市をあげて子ども会を盛り上げる様々な活動がなされていることも知らなかった私たちは、役員の方々の熱意に感心させられ、当日参加された各団体、そして何より子どもたちのいきいきとした熱気の中にあっては、改めて、子どもを子どもらしく育てられる、地域の母のような存在に自分自身育っていきたいとの思いを強くしました。

初参加で至らない部分も多く、次回への課題も見つかりました。担当の役員さんには大変お世話になりました。このイベントが永く続き、たくさん子どもたちが参加してくれることを願います。



受賞者紹介

◎全子連表彰

個人

- ・池田 陽子(梅香崎中学校区青少年育成協議会)

団体

- ・馬場子ども会(矢上小学校区)

◎九子連表彰

- ・畑中 啓子(福田中学校区青少年育成協議会)

- ・河野三千克(山里小学校区市子連専門委員)

◎県子連表彰者

個人

- ・宮本 博(畝川小学校区青少年育成協議会)

- ・山下 常樹(横尾中学校区青少年育成協議会)

- ・松尾 陽子(西浦小学校区青少年育成協議会)

- ・高島由基子(矢上・高城台小学校区市子連専門委員)

- ・吉原 栄(福田中学校区青少年育成協議会)

団体

- ・清藤子ども会(矢上小学校区)

◎県民会議顕彰

- ・大岩 道子(小ヶ倉中学校区青少年育成協議会)

- ・濱辺 廣明(小ヶ倉中学校区青少年育成協議会)

- ・吉原 栄(福田中学校区青少年育成協議会)

うなぎに乾杯 (その2)

やっぱり天然はうまかばい！！

【さる10月3日(土) 茂木小学校前若菜川にて】

前号に続き、今回は“うなぎ塚”を開けた時のお話。

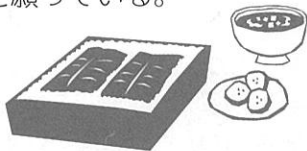
参加者は、子ども57名、大人25名。準備のいい子は、あみやバケツを持参、格好もそれぞれで、話題づくりにひと役。

前日からの大雨で塚を心配。積んだ石はなんとか残ったが、掘った穴(うなぎの寝床)が土砂に埋まっていた。『ためしに探してみよう』と探っていたリーダーが『オオー、おるぞ』と大声で叫んだ。とたんに、子どもたちも大人も塚めがけて一目散。ぬるぬるの感触に『ウワッ』と手を引っ込めたり『ホラッ』と揚げて見せたり。

結局、8匹を獲り2匹を逃がした。逃がしたうなぎは一番大きかったとか。陸(学校の中庭)では、調理担当が『まだかな〜』と待機。

約70名分の“うなぎ”。隣り近所にもおいしい香りをおすそ分け。

子どもたちは『川の中に入って楽しかった』『やっぱり天然うなぎはうまかばい!』と感想。この行事を通じて『自然の大切さを感じ取って』と願っている。



いよいよ「うなぎ塚」を開けます。ワクワクドキドキ



大きな“うなぎ”が獲れました。ヤッター!!

茂木中学校区青少年
育成協議会 前会長

山口 政嘉

編集後記

みなさんこんにちは、またまた編集後記を書く時期が来てしまいました。春が来るのを首をなが〜くして待っている今日この頃です。ところでみなさん、「のびゆく長崎っ子」読んでもらっていますか? 編集委員が一生懸命、知恵を絞って作っている「のびゆく長崎っ子」、多くの人に読んでもらいたいと思っています。年に2回発行ですから記事の中身を決めるのもなかなか難しいもので、たいへん苦慮しています。

フリージャーナリストの池上彰さんによると、朝刊には、ざっと20万字ほどの文字が印刷されているそうで、書籍にすれば新書2冊分に相当するそうです。新書を毎日2冊も読むのは難しいですが、「のびゆく長崎っ子」はそんなにないですからサッサッと読んでぜひ活用していただければと思います。次号からはまた新しい編集委員が知恵を絞って作っていきます、ぜひ読んでください。